

# 放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策  
専門部会委員、東京大  
学医科学研究所  
坪倉正治  
作成＝放射能対策室



## Q 放射線測定器で測定中に数値が変わるのはなぜですか？

A 放射線を出す能力を持つ物質のことを放射性物質（放射能）といいます。線香花火に例えると、線香花火の火の玉が放射性物質、火の玉から出る火花が放射線です。火花の飛び散り方が一定ではないように、放出される放射線量は常に一定ではないため、放射線測定器で測定を行うと放射線量の値が変動します。そのため、何度も繰り返し計測したり、ある一定の時間における平均の放射線量を計算したりすることで、放射線量を求めます。

また、測定器の種類ごとに精度が異なります。一般の方が手にする機会の多い手持ち式の簡易型測定器は、小型・軽量で手軽に持ち運べるため、どこでも簡単に放射線を測定することができます。その一方、自然から受ける放射線（自然放射線）などに対する感度が高く、示す測定値が実際より高くなる傾向があります。どのような場合でも、放射線の影響を低く見積もらず、より安全側に余裕のある数値が表示されるようになっており、放射線量の測定値が公共施設に設置されている測定器（モニタリングポスト）より高くなる傾向があります。除染現場や仮置場の空間線量の測定で用いられる測定器は、簡易型測定器に比べ測定値の「ばらつき」や「ずれ」が小さく、安定した測定を行うことができます。

測定器は精密機械であるため、定期的な点検を行うことが重要です。購入してから時間が経つと部品の劣化などにより測定精度の低下や故障により測定ができなくなる恐れがあります。市が管理している放射線測定器やモニタリングポストは、定期的（1年に1回）に専門業者による点検を行っており、測定精度が維持されています。

市では、身近な放射線測定のため手持ち式の簡易測定器（メリディアン社製「プリピャチ」）の無償貸出を放射能対策室で行っております。

また、平成27年9月30日まで市内家屋の線量測定と除染の受付を放射能対策室および各地区公民館で行っていますので、希望される方はお申し込みください。



市が貸出している簡易測定器  
（メリディアン社製「プリピャチ」）

出典：環境省除染情報プラザ パンフレット「放射線測定器を正しく使用するために」  
ハンドブック「生活空間の放射線測定 基礎知識」

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

## 自家消費野菜などの 放射性物質測定結果

### ● 1月分

▽測定件数 27件（内訳：野菜 5件、果実 4件、魚 3件、山菜・きのこ類 3件、新米 2件、その他 10件）  
▽基準値を超えた食品 0件

### ● 相馬市で出荷制限などを受けている食品（2月10日現在）

▽クリ▽くさそてつ（こごみ）▽たけのこ▽ふきのとう（野生）▽ぜんまい▽たらの芽（野生）▽原木しいたけ（露地）▽原木なめこ（露地）▽野生きのこ▽こしあぶら▽うど（野生）▽牛（県の定める出荷・検査方針に基づくものを除く）

※最新の情報は、福島県環境保全農業課ホームページでご確認ください。

https://www.pref.fukushima.jp/sec/36021d/non-kekka.html

◎これまでの食品の検査結果（相馬市ホームページ）

http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37 2 2 7 0）